

SPECIAL ISSUE / NISSAN MECHANIC CHALLENGE

RACE × FASHION

レースを、服から見てみる。

2026 AUTOBACS SUPER GT ROUND6
SUGO GT 300KM RACE

2026 年 9 月 19 日（土）・20 日（日） / 担当：栃木校



レースと聞いて、思い浮かぶのは速さや技術。では、そこにいる人たちが身につける「服」に目を向けると、何が見えてくるのでしょうか。

今回のテーマは「レースとファッション」。SUGO の予選・決勝を伝えるとともに、近藤真彦監督へのインタビューを軸に、ウェアと役割、そしてチームらしさのつながりを探ります。

01-02 / RACE

03 / INTERVIEW

04-05 / FIELD

近藤真彦監督の言葉

予選・決勝レポート

ウェア・活動・振り返り

01 / QUALIFYING

GT300 クラス 予選結果

2026 年 9 月 19 日（土） / SUGO GT 300KM RACE

予選の走りと、それを支える現場。

予選順位 19位 天候 曇り 路面状態ドライ

車両番号：56 車名：リアライズ日産メカニックチャレンジGT-R

ドライバー：ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ 記録：1分18秒082



予選を振り返る

9月19日(土)、SUGO GT 300KM RACE の予選日。朝から小雨が降りましたが、予選前には、雨が上がりドライ路面での予選となりました。GT300クラスの56号車【リアライズ日産メカニックチャレンジGT-R】は、19位という結果でした。

予選では、J.P.デ・オリベイラ選手がQ1を担当し、全力のアタックを見せてくれましたが98kgという、重いサクセスウエイトの影響もあり惜しくもQ1敗退となりました。今回の予選は残念な結果となってしまいましたが持ち前のレースペースの良さとチーム力を活かして1ポイントでも多く獲得できるように我々もサポートしていきます！

GT300 クラス 決勝結果

2026 年 9 月 20 日（日） / SUGO GT 300KM RACE

結果と、その過程を伝える。

【順位】 2位 【天候】 曇 【路面状態】 ドライ

車両番号：56号車 車名：【リアライズ日産メカニックチャレンジGT-R】

ドライバー：木村 偉織 J.P.デ・オリベイラ 周回数：80Laps



決勝を振り返る

9月20日、決勝日。前日と同様に朝から小雨が降り、ウォームアップ走行では水しぶきも上がっていましたが、最終的には路面が乾きドライでのレーススタートとなりました。

GT300クラスの56号車【リアライズ日産メカニックチャレンジGT-R】は、2位でのフィニッシュとなりました。

56号車は19番手からのスタート。第1スティントは木村偉織選手が担当し、スタートから順調に順位を上げ、36周目にピットイン。J.P.デ・オリベイラ選手にドライバー交代しました。

そこでチームはタイヤ無交換作戦を決行。ピットタイムを大きく短縮することに成功し、一気にトップに踊り出ました。第2スティントではタイヤが厳しい中J.P.デ・オリベyra選手がタイヤをもたせ最終的に2番手でフィニッシュしました！

これにより20ポイントを獲得しランキング1位をキープ。2位との差を22ポイントに広げることに成功しました！

チームとしては第2戦富士線での優勝以来の表彰台となりました！

03 / DIRECTOR INTERVIEW

近藤真彦監督インタビュー

チームウェアを着ると、何が変わる？

チームウェアを身につけることは、監督にとってどのような意味を持つのでしょうか。着るときの気持ち、デザインへの考え方、そしてファッションからレースへつながる入口について伺います。



Q1.監督にとってファッションとはどんな存在ですか？

A.やっぱり、ファッションに興味がない人より、ある人のほうが、個人的には、仕事ができる気がするね(笑)

Q2. チームウェアを着るときの心構えはありますか？

A.チームウェアって1人で着てても10人、30人が着てても、やっぱりカッコよくないかなーと思うし、チームウェアや車って面白いんですけど優勝したりそのチームが強いとそのチームウェアを見ただけで「強い！」とか「カッコいい！」ってなるんだよね。

だからやっぱりレースの世界のファッションって、優勝するとそこそこのファッションでもおしゃれに見えるしカッコよく見える、車もそうだと思うんだよね。車のカラーリングもまあ言ってみればデザインじゃないですか、デザインもいつもビリッぱっかり走ってたらカッコ悪くなるんだけど優勝するといきなりその車が速そうに見える。だからやっぱりレーシングチームのチームウェアは成績にかかってるね(笑)。カッコよく映るも映らないも成績次第だね。

Q3. モータースポーツのウェアを普段着として楽しめるようにするにはどのような工夫が必要だと思いますか？

A.サーキットに向かう電車の中からチームウェアを着てくる人はやっぱりいる。ここ営生みたいにサーキットが近いといいですけど、KONDOレーシングだったりニスモのチームウェアを渋谷の街で着てる人がいるかって言うといないよね。

でも、確かにサッカーのユニフォームも着てる人はいる。じゃあ野球は？キャップは見るけどユニフォームはやっぱりサッカーがダントツだよね。ある意味サッカーが特殊なのかもしれないけど、将来的にはそうしたいけど...難しいかもしれないね。

F1のチームウェアもサーキット行ったらみんな着てるのに渋谷で着てる人はあんまり見ないもんね。

うちはプーマでウェア全部作ってるんだけどプーマってやっぱりスポーツウェアを作ってる会社なんでジョギングなんかで着れるようなコンドレーシングのジャージみたいなのはある。

僕はそれを着てジョギングしてKONDOレーシングとリアライズとプーマ宣伝しながら皇居走ってます(笑)

だから本当に言われたように日本のモータースポーツじゃなくても世界中のモータースポーツのチームウェアが渋谷とかの街中で見られるといいよね。

Q4. 普段服を選ぶときに大事にしていることはありますか？

A. 年齢とともに安全牌の色だとかデザイン、色を選びがちだからもうそんなピンクのTシャツは着れないなーと思うけど、そこでわざとオレンジだったりピンクだったりするTシャツをわざと買う。だから年取ったら年取るほど割とそこを意識して明るい色だったりデザインのTシャツを着るようになったりジャケットもちょっと奇抜なものを着るようになったり、わざとそうゆうふうにお店行ってズラッと見て派手な方から選ぶようにしてる。

ドライバーとテクニカルスタッフが語る

「服へのこだわりと心境」

ドライバーとテクニカルスタッフ（TS）の方に服に関するこだわりや心境について質問をしました！

Q1.レーシングスーツ（レースングスーツウェア）を着るときの気持ちを教えてください。

[木村選手] いろんなチームでレースしている中で、やっぱりこのレーシングチームはチャンピオンチームとして上位にいるチームなのでやっぱり一番最初にそのスーツに袖を通した時、やっぱりすごい身が引き締まると思いました。まあ、2回目以降はもう同じスーツなので、あまりそういう思いはありませんでしたけど（笑）。まあ、初めて袖を通す時、多分皆さんも特別な気持ち つか...嬉しい気持ちになると思うんですけど、そういう気持ちです。

[オリベ이라選手] はい、長年レーシングスーツを着てきて、中でも特に思い出の深いものもあります。そのスーツを着ることで特別な力が宿るかどうかはわかりませんが、私にとって最も大切なデザインは、おそらくこのスーツとカルソニックのスーツでしょう。このスーツで2回チャンピオンシップを獲得しましたし、カルソニックのスーツは7年ほど着ていたと思います。あれも私にとって特別なスーツでした。

[佐藤さんTS] お客様の前に出るので、1番は身だしなみだと思います。学生の際はチャックの上を閉めなかったりとかあると思いますけど、暑いからと言ってだらしない格好をするよりは、ちゃんと服を着てやった方がいいと思う...、例えば、エンジンルームに、手を入れる時に、腕を捲っていたら、怪我をしてしまうかもしれないので...。学生のうちから癖をつけておくと、いいかもしれないです。

Q2.普段服を選ぶ時に大事にしていることはありますか？

[木村選手] 値段とデザインと着心地。みんなそうなんじゃないかな？はは（爆笑）。

[オリベ이라選手] 私も価格、デザイン、着心地だと思います。さらに色も私にとっては大事です。私は青が好きなのでよく青色を選んでいきます。服だけではないです。濃い青のパンツに水色のシャツ。いつも着ています。私にとって、青という色が好きなんです。

[佐藤さんTS] 動きやすさだったり、使いたい服が何かだと思うので...、例えば靴だったら、その靴に合わせて、服をどうするのか、色を入れるのか、そこまで考えることが大事だと思います。

ファッションから、 レースのその先へ。

見る視点が変われば、伝えたいことも変わる。

取材を振り返って

ファッションからレースを見ると、何が見えてくるのか。今回の取材で、私たちは、仕事に対する色々な立場からの考えの違いに、注目しました。近藤監督の「チームウェアって1人で着てても10人、30人が着ても、やっぱかっこよくなきゃいけないと思う」という言葉と、コンドウレーシングのスタッフ同じツナギを着て団結して集中して仕事に取り組むことが、特に印象に残っています。

栃木校の学生広報として、今回取り組んだのは、動画とレポートのレイアウトのこだわりです。特に、今回のテーマが「ファッション」であるため、撮影機材や編集のレイアウトにこだわることで、美しいレポートを作り上げることができたのではないかと思います。この経験を、次回のもてぎ戦でのレポートにつなげていきたいと思っています。



【キャプション：活動の場面・写っている人・撮影者】

レースを知る入口は、タイムや順位だけなのでしょうか。服の色やデザインが気になったなら、次は、それを着ている人や、その人が担う役割にも目を向けてみてください。サーキットを見る視点が、少しずつ変わるかもしれません。

RACE × FASHION

NISSAN MECHANIC CHALLENGE / 担当：栃木校

この活動は下記のパートナー企業に支えられています

